

ンタイトルが、90以上を示し、家庭環境は80前後を示しているが、(b)スターは、適応性が50以下、家庭環境が25前後を示した。また、団地の(a)スターは、友人の相互結合数が3組、非団地のそれは1組、(b)スターは、団地が1組、非団地には見出されない。総合的にみると団地の適応性73に対し、非団地は、84パーセントイルを示し、家庭環境は、団地が53に対し、非団地のそれは、62.8を示している。

20. 家庭環境が児童の人格形成におよぼす影響について

(第1報) 団地と非団地の比較

広島女子短大 鹿股寿美江

1. 家庭環境が児童の人格形成にどんな影響力をもっているかについて、団地と非団地を比較研究することを目的とした。

2. 研究対象として、つぎのものをえらんだ。A団地(造船工員の密集住宅地)として、広島市南観音小学校児童5年生(49名)、とその家庭、B非団地(サラリーマン、商業)として同市中島小学校児童5年生(41名)とその家庭、調査は、昭和36年4月、5月の2ヵ月間にわたって実施。ソシオメトリックテスト、精研式文章完成法テスト、適応性診断テスト、田研式家庭環境診断検査、広大案養育態度尺度を用いた。調査整理の方法は、(1)このまれる個人指数(a)とこのまれない個人指数(b)を算出し、指数0.15以上をスターとし、(a),(b)各々のスターについての考察を行なった。(2)団地と非団地との総合的比較を行なった。

3. (a)スターは、団地、非団地ともに、適応性パーセ